

## 学長定例記者会見要項

日 時： 令和2年4月2日（木） 11：00～11：45  
場 所： 人文社会科学部1号館3F301講義室（小白川キャンパス C1）

### 発表事項

1. 山形大学の新体制について
2. 山形大学行動計画 「Annual Plan 2020」 について
3. 新型コロナウイルス感染症への対応状況について
4. 山形大学「基盤力テスト」分析結果のご報告（第2回）

### お知らせ

1. 山形大学が参加する研究プロジェクトがNASAに採択  
～宇宙最大の爆発現象の解明に挑む「LEAP計画」～

### （参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時： 令和2年4月16日（木） 11：00～11：45  
場 所： 法人本部第一会議室（小白川キャンパス法人本部棟3階）

## 学長定例記者会見（4月2日）発表者

### 1. 山形大学の新体制について

学長

たまたま ひでとし  
玉手 英利

### 2. 山形大学行動計画 「Annual Plan 2020」 について

学長

たまたま ひでとし  
玉手 英利

### 3. 新型コロナウイルス感染症への対応状況について

学長

たまたま ひでとし  
玉手 英利

### 4. 山形大学「基盤力テスト」分析結果のご報告（第2回）

学術研究院准教授 （基盤共通教育担当）

やすだ じゅんいちろう  
安田 淳一郎

令和2年（2020年）4月2日

## 山形大学の新体制について

### 【役員】

職名	氏名	任期
学長	玉手 英利	6年／2020.4.1～ 2026.3.31
理事・副学長 (研究, 社会連携, 知的財産担当)	飯塚 博	2年／2020.4.1～ 2022.3.31
理事・副学長 (教育, 入学試験担当)	出口 毅	同 上
理事・副学長 (学生支援, EM・IR, 広報担当)	矢作 清	同 上
理事・副学長 (評価, 病院, 財務担当)	根本 建二	同 上
理事・副学長 (総務担当)	小島 浩孝 <sup>(※)</sup>	同 上
理事 (非常勤) (施設担当)	瀬瀬 晃 <sup>(※)</sup>	同 上
副学長 (国際交流担当)	林田 光祐	同 上

※ 国立大学法人法改正に伴い、2名の学外者を理事に任命

### 【法人部局長】

職名	氏名	任期
小白川キャンパス長	清塚 邦彦	2年／2020.4.1～ 2022.3.31
飯田キャンパス長	上野 義之	同 上
米沢キャンパス長	中島 健介	同 上
鶴岡キャンパス長	村山 秀樹	同 上
医学部附属病院長	佐藤 慎哉	3年／2020.4.1～ 2023.3.31
附属学校運営部長	中井 義時	2年／2020.4.1～ 2022.3.31

## 【大学部局長】

職名	氏名	任期
社会文化システム研究科長	是川 晴彦	2年／2020.4.1～ 2022.3.31
人文社会科学部長	是川 晴彦	同 上
地域教育文化研究科長	大森 桂	同 上
教育実践研究科長	大森 桂	同 上
地域教育文化学部長	大森 桂	同 上
理学部長	大西 彰正	同 上
医学系研究科長	上野 義之	同 上
医学部長	上野 義之	同 上
医学部附属病院長	佐藤 慎哉	同 上
理工学研究科長	中島 健介	同 上
有機材料システム研究科長	伊藤 浩志	同 上
工学部長	中島 健介	同 上
農学研究科長	村山 秀樹	同 上
農学部長	村山 秀樹	同 上
大学院基盤教育機構長	出口 毅	同 上
学士課程基盤教育機構長	三上 英司	同 上

お問い合わせ

山形大学エンロールメント・マネジメント部 広報室（笠原）

TEL 023-628-4008 メール koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和2年（2020年）4月2日

## 山形大学2020年度行動計画 「Annual Plan 2020」について

### 【本件のポイント】

- 新体制の下で初めて策定した「Annual Plan」。
- 「Annual Plan 2020」は、今年度、山形大学が取り組むべき課題と目標等を山形大学のステークホルダーに周知し御理解いただくことを目的に作成。
- 山形大学が更に飛躍するため、特に今年度重点的に実施する全28プラン。年度計画<sup>(※1)</sup>を上回る高い到達点を目指す。



### 【概要】

山形大学の2020年度の行動計画として、「Annual Plan 2020」を策定しました。  
「Annual Plan」は、山形大学のステークホルダーに当該年度の経営方針及び行動計画を周知し御理解いただくことを目的に毎年度始めに策定しているものです。山形大学の更なる飛躍に向けて、今年度は、28項目を策定。各理事・副学長を中心に、教職員が当該年度の「Annual Plan」の項目を日常的に意識し、業務に取り組んでいくことを狙いとしています。

### 【作成に当たり留意した点】

山形大学が更に飛躍するための項目に精選（全28プラン）しており、各プランは、特に今年度重点的に実施するもので、年度計画を上回る成果や高い到達点にチャレンジするものを基本に策定しています。

また、第3期中期目標<sup>(※2)</sup>・中期計画<sup>(※3)</sup>が達成すべき数値・時期を明示し、達成度の評価が可能となるように具体的な目標・計画の設定となっていることから、「Annual Plan 2020」の各プランにおいても、達成すべき数値・時期が明確となるようにできるだけ具体的に策定しています。

### ※ 用語解説

1. 「年度計画」とは、中期目標・中期計画を着実に実施するために、各年度において取り組む業務運営の具体的な計画であり、文部科学大臣に届け出たものです。
2. 「中期目標」とは、国立大学法人が6年間において達成すべき業務運営に関する目標であり、文部科学大臣が定め、各国立大学法人に提示し、公表しているものです。第3期とは、平成28～令和3年度の6年間のことを指します。
3. 「中期計画」とは、国立大学法人が中期目標を達成するために作成した6年間の計画であり、文部科学大臣の認可を受けることとなっているもの。

お問い合わせ

企画・財務部 企画・予算課 國分

TEL 023-628-4192 メール kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和2年（2020年）4月2日

## 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)への対応状況について

山形大学では「新型コロナウイルスに係る総合対策本部」を1月31日に設置し、学生や教職員への対応方針を検討・決定してきました。昨日4月1日までに合計12回の対策本部会議を開催しており、特に新学期の授業やガイダンスの実施方法について、現在の状況をお知らせします。

### 1. 前期授業の日程等について

#### ①新入生（学部1年生）への対応

- ・4月6日～8日までの間に、教室や時間を分散させ、最小限の時間で、学生証の配付や履修登録などの説明を行う。
- ・4月9日～5月6日まで、小白川キャンパスで行う1年生向けの授業（基盤共通教育の授業）は、Webを活用するなどして課題を与え、自宅での自学学習とする。
- ・教室を使用するの対面授業（基盤共通教育の授業）は、5月7日から開始する。
- ・健康状態の確認を徹底し、不要不急の外出を控えるよう指示する。

#### ②在学生（学部2年生以上）への対応

- ・4月6日～、WEBを使用して、対面しない形で成績配付や履修登録説明を行う。
- ・教室を使用するの対面授業（学部の専門教育）は、4月20日から開始する。
- ・健康状態の確認を徹底し、不要不急の外出を控えるよう指示する。

#### ③大学院の新入生、在学生への対応

- ・4月3日から、①及び②に準じて対応する。

### 2. 授業（演習、実習、フィールドワーク等含む）の実施方法

学内で定めた「新型コロナウイルス感染症拡大防止のための授業実施ガイドライン」に基づいて、①十分な換気をする ②人と人の距離を確保する ③近距離での会話を回避する、という三原則を考慮し、多人数が室内で長時間滞在することがないように注意する。

### 3. 課外活動などについて

- ・全学生の屋内でのサークル活動を、原則として禁止する。
- ・各キャンパスに設置している図書館や博物館などの利用を、学生・教職員に限定する。

※変更前の前期授業日程スケジュール

4月6日～8日：前期オリエンテーション

4月9日～：授業開始（～15日まで履修登録期間）

お問い合わせ

山形大学エンロールメント・マネジメント部 広報室（笠原）

TEL 023-628-4008 メール koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

令和2年（2020年）4月2日

## 山形大学「基盤力テスト」分析結果のご報告（第2回）

### 【本件のポイント】

- 平成29～令和元年度において、本学の1～3年次の学生を対象に「基盤力テスト」を実施し、分析結果をまとめた。
- 比較分析の結果、平均能力値が意図通りに向上したカリキュラムについては、一定の教育成果が認められたと考えられる。一方、意図通りに向上しなかったカリキュラムについては、その改善策が実行されている。
- 基盤力テストの結果は学生に即座にフィードバックし、学生の学習動機を高めることを試みている。



### 【概要】

山形大学では、基盤力テストを平成29年度より毎年実施し、学生の学習達成度を可視化しています。このたび、平成29～令和元年度のテスト結果から、1～3年次の能力値の推移を分析した結果をまとめました。分析の結果、化学を専門とする一部のカリキュラムの学生については、化学の平均能力値が有意に向上しており、本学の教育が一定の成果をあげていることが認められました。一方、同じく化学の能力が向上することが期待されながら、化学の平均能力値が有意に変化していないカリキュラムがあることも明らかになりました。この結果からは、教育上の課題が発見されたと言え、授業でより丁寧な解説を行うなどの改善策が実行されています。基盤力テストの結果は学生に即座にフィードバックしています。テストの結果にメッセージを付け、学習の動機づけを試みています。

### 【背景・目的】

これまで学生の学習達成度を評価する方法は、主観によるアンケートなど間接的な評価法が一般的でしたが、間接的な評価法では学生の性格等にも影響されることから、いま国内外で強く要請されている教育の質保証に十分対応できないという問題がありました。そこで山形大学では、直接的な評価法である全学共通の「基盤力テスト」を独自に開発し、数的文章理解・数学・物理・化学・生物・語彙力の6科目について、平成29年度より毎年実施しています。これにより、本学の学士課程教育の各段階で学生の学習達成度を直接的に測定し、教育効果の可視化、および教育改善に取り組んでいます。

### 【科目「化学」の分析結果の一例】

	入学年度	化学の平均能力値（1年次）	化学の平均能力値（2年次）
化学が専門である	H29年度	-0.22	0.50
カリキュラム A	H30年度	-0.12	0.29
化学の能力向上が期待される	H29年度	-0.45	-0.37
カリキュラム B	H30年度	-0.22	-0.18

（裏面に続きます。）

化学が専門であるカリキュラム A については、H29 年度入学生の 1 年次の化学の平均能力値が -0.22、2 年次は 0.50 となり、1 年間で 0.72 向上しました。一方、化学の能力向上が期待されるカリキュラム B については、H29 年度入学生の 1 年次の化学の平均能力値が -0.45、2 年次は -0.37 となり、有意な変容は認められませんでした。これらの傾向は、H30 年度入学生についても同様でした。この結果から、カリキュラム A については、化学に関する教育が一定の成果をあげていると認められます。一方、カリキュラム B については、課題が発見されたと言え、一年次の化学の授業でより丁寧な解説を行うなどの改善策が実行されています。

### 【学生へのフィードバック】

基盤力テストの結果は、テスト終了後、学生に即座にフィードバックしています（図1）。フィードバックの画面では、テスト結果（ダイヤモンド、ゴールド、シルバー、ブロンズの4段階）とメッセージが表示されます。メッセージの内容は、テスト結果および科目ごとに異なり、学生の学習達成度に応じたアドバイスになっています。これにより、学生の学習動機を高めることを意図しています。過去のテスト結果は、図2のように一覧表示されるよう、開発を進めています。

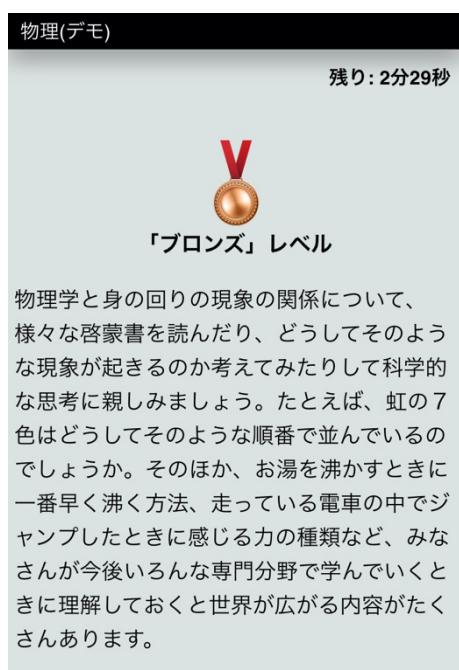


図1. 各テストの結果画面

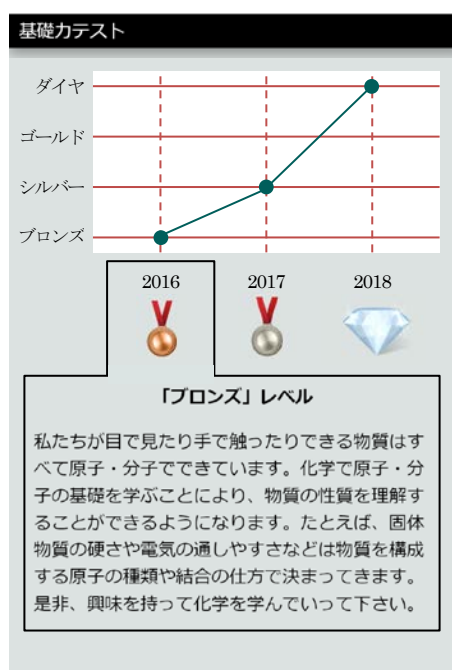


図2. 過去のテスト結果一覧画面  
(画面はイメージ)

お問い合わせ 学術研究院准教授（基盤共通教育） 安田 淳一郎  
TEL 023-628-4801 メール ysdjun16★kdw.kj.yamagata-u.ac.jp  
※★を@に変えてください。



令和2年(2020年)4月2日  
山形大学

\* 詳細は別添の資料をご覧ください。

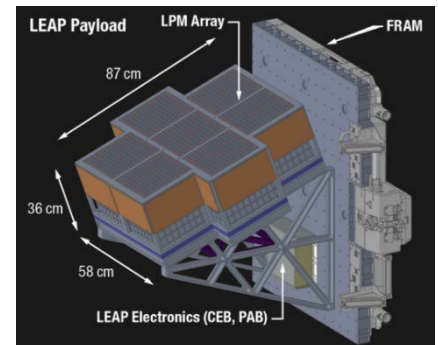
## 1. 山形大学が参加する研究プロジェクトがNASAに採択 ～宇宙最大の爆発現象の解明に挑む「LEAP計画」～

郡司修一教授（宇宙物理学）らの研究グループが行っている、国際宇宙ステーションに大型のガンマ線バースト偏光度検出器を搭載する共同研究プロジェクトが、NASAから採択されました。今後9ヶ月間、計画実現に向けた研究に取り組み、最終選考で選ばれば、2025年の打ち上げを目指します。

令和2年（2020年）4月2日

## 山形大学が参加する研究プロジェクトがNASAに採択 ～宇宙最大の爆発現象の解明に挑む「LEAP計画」～

- 宇宙最大の爆発現象であるガンマ線バーストのメカニズムを解明するため山形大学が参画する「LEAP計画」が、NASAに採択されました。
- LEAPはガンマ線バーストから放射されるガンマ線の偏光を観測できる検出器で、過去最大の大きさを誇ります。
- ガンマ線バーストからどのような放射メカニズムでガンマ線が出てくるかは未だ謎ですが、本プロジェクトによりその解明が行えると期待されます。



### 【概要】

山形大学の郡司修一教授（宇宙物理学）らの研究グループは、ニューハンプシャー大学やNASA マーシャルスペースフライトセンター（NASA/MSFC）と共同で、国際宇宙ステーションに大型のガンマ線バースト偏光度検出器を搭載する計画（LEAP 計画）に参加しています。昨年 NASA に LEAP 計画の実現を提案していましたが、2020年3月17日に計画が採択されたことが NASA から公表されました。今回、LEAP を含めた4つのプロジェクトが採択されましたが、今後9ヶ月間の研究を行った後に、最終的に採択されるプロジェクトは2つに絞られます。その最終選考に残れば2025年の打ち上げを目指します。

宇宙最大の爆発現象として知られるガンマ線バーストは、太陽が一生涯かけて放出するエネルギーをわずか数十秒で放出してしまう天体です。エネルギーの大半はガンマ線で放出しますが、そのガンマ線がどのようにして作られるのかは分かっていません。その謎を解明するためには、多くのガンマ線バーストに対して、ガンマ線の偏光観測をする事が非常に重要です。LEAP はガンマ線の偏光を観測できる検出器で、過去最大の大きさを誇ります。本プロジェクトが実現すれば、ガンマ線バーストのメカニズムが解明できると期待されています。

### 【これまでの経緯】

ガンマ線バーストとは宇宙最大の爆発現象です。発見から50年が過ぎようとしていますが、その詳細なメカニズムは解明されていません。解明のための大きな鍵を握るのがガンマ線の偏光観測です。この偏光観測を通してガンマ線バーストの謎に挑むため、2015年度から山形大学の郡司研究室では NASA/MSFC やニューハンプシャー大学と共同で、宇宙ステーションにガンマ線バースト偏光度検出器を搭載するための研究を行ってきました。この研究計画は LEAP (Large Area burst Polarimeter) 計画と呼ばれ、山形大学はガンマ線の偏光を観測できる検出器の基礎的な開発やコンピューターシミュレーションに大きく貢献してきました。

このプロジェクトを実現させるため、2019年8月1日に、NASA 本部（アメリカ航空宇宙局）に計画実現のための申請を行っており、2020年3月17日に NASA からプロジェクトの採択が公表されました。

（ 詳細はこちらのサイトをご覧ください。 <https://www.nasa.gov/press-release/nasa-selects-proposals-to-study-volatile-stars-galaxies-cosmic-collisions> ）

なお、山形大学では YU-COE(C) という研究拠点の形成支援事業を独自に実施していますが、本研究は2018年度からサポートを受けています（「偏光をプローブとした高エネルギー宇宙物理学の研究拠点」）。

### 【今後の展望】

郡司教授らは、本研究プロジェクトのほか、X線偏光観測衛星 IXPE 計画にも参加しており、こちらの衛星は来年度に打ち上がる予定です。この衛星はガンマ線よりエネルギーの低い X 線の偏光を観測できる衛星です。山形大学は LEAP と IXPE の両方の計画に参加しており、LEAP 計画の実現が決まれば、科学的な相乗効果が期待できます。

お問い合わせ

学術研究院 教授 郡司 修一（宇宙物理学）

TEL 023-628-4555 メール [gunji@sci.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:gunji@sci.kj.yamagata-u.ac.jp)